

ミックスジュース

学級通信
鯉沢中
3年生
2018年5月11日
No. 7
宿泊学習思い出すね



道徳「ジョイス～世紀の大誤審～」



今回の読み物について

ジョイスはアメリカメジャーリーグの審判員で、2010年「世紀の誤審」をおかした審判としてファンの間では有名な人物です。完全試合目前の9回裏2アウトの場面でジョイスがくださった判定はセーフでした。監督が抗議し、観客からブーイングが起こっても判定を変えることはなく、投手ガララーガの完全試合という夢は成し遂げられませんでした。

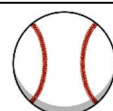
しかし、試合後のリプレイを見たジョイスは明らかなミスジャッジであることを認め、すぐにガララーガに謝罪します。ガララーガはそれを受け入れ「誰にだって間違いはある。彼の方がつらいはず」という言葉を残します。翌日の試合で球審として現れたジョイスとガララーガは固い握手を交わしました。誤審をしたジョイスは圧倒的な悪者でしたが、あとに、自ら過ちを素直に認めたジョイスの潔さにも目が向けられるようになり、ジョイスは大リーグの現役選手が選ぶNo.1 審判員に選ばれたのでした。

今日の授業で学んだこと、考えたこと？（一部ですが、みんなの考えを紹介します・・・）

- 失敗することはあるが、失敗した後に何をするかが重要だと思った。自分はジョイス審判みたいにはなれないかと思った。あんな勇敢には・・・。
- 自分の完全試合を止められた人を、寛大な心で受け止めるガララーガ投手もすごいが、球審としての責務を全うしたジョイスをもっとすごいと思った。失敗してもあの場に立ったジョイスを尊敬したい。
- 私は1回大きなミスをしたことがあります。中学1年生の総体で、審判をうまくできずグダグダしてしまいました。私はそのとき逃げてしまったけど、ジョイス審判は逃げませんでした。だから、人としてジョイス審判を尊敬します。



「失敗した後にどのような行動ができるか」。
「人として恥ずかしくない生き方をしているか」
ジョイスとガララーガの姿から考えさせられます。やっぱりスポーツって素晴らしいですね。





来年度から中学校の道徳は教科になるそうです…



5月9日(水)
山口新聞より



ボプラ社が開いた道徳のワークショップで、自分の考えを発表する児童ら
—東京都新宿区

道徳をどう解く

教科化に合わせ児童書続々

3月刊行された「答えのない道徳の問題 どう解く?」(ボプラ社)は、広告代理店で働く育児中の男性3人がいじめなど子どもを取り巻く環境に不安を感じたのをきっかけに企画、家族や友情など13の問いに文化人が解答例を寄せた本だ。

考え込む場面
勉強について棋士の羽生善治さんは、たくさんのことを知った上で「大人になったときにいらないものは自分の判断で捨て、残ったものが勉強したもの」と

ついていいうそと駄目なうそ、違いは何? インターネット上と学校の友達、どちらが本当の友達? 4月の小学校での道徳教科化に合わせて、物事の善しあしや生きることを問う児童書の出版が相次いでいる。



道徳の教科化に合わせて刊行された児童書



山崎博司さん(中央)ら、道徳の児童書「どう解く?」を企画した3人

善悪 生きる意味考える

説明。うそについて詩人の谷川俊太郎さんは「うそと本当を黒と白みたいに、正反対なものごらえるのは単純すぎる」と述べる。

3月に東京都内でボプラ社が開いた道徳のワークショップでは、この本を教材に小学生と保護者計約20人が参加し、勉強や将来の夢、命をテーマに議論。ワークショップでは、勉強について「親はなぜ勉強しなさいと言っの?」との疑問から話が始まった。

「勉強は面倒」「宿題、宿題と言われる」と話す子どもたちに、親たちは「なぜそう思うの?」と質問。「勉強は遊びと違うから嫌い」などの声も上がった。親子で考え込む場面もあった。

「答えが出なくても、話がそれてもいい。気軽に話し合っにつかかしてほしい」と企画者の一人、山崎博司さん(34)は話した。道徳関連の一般書は他にも。教育学者で明治大教授の斎藤孝さんの「キミたちはどう生きるか? こどものための道徳 生き方編」(ビジネス社)は、働くことや地域参加の意味などを解説する。先生と子どもが会話する形式で、担当者は「家庭で話す際のヒントにしてほしい。」「学び方編」と同時刊行された。

高まる重要性
いじめの構造や心理などを掘り下げたのが「シリィズ・道徳と『いじめ』」(ミネルヴァ書房)。解説やデータ、実際の授業例などを3巻に分けて紹介する。「来年の中学校での教科化まで視野に入れた内容。いじめの解決につながる議論に役立ててほしい」と担当者。教育学者の汐見稔幸さんは、ネットが浸透し、人工知能(AI)などの科学技術が発達していく社会で道徳の重要性は増すと指摘する。「人のために喜んだり悲しんだり、対人関係の中で生きがいを実感する機会が減っている。他者の豊かな意見を取り入れ、膨らみのある道徳の学びを引き出していくことは大切ですね」と話す。

学友会 K-1 グランプリ (挨拶を通して「気づきの eye」を育てよう)・実力テスト・旅行記作成

